

# 防災キャンプ in 室戸

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

南海トラフ巨大地震を想定しながら様々な体験活動を行うことで、地震や津波についての知識をもったり、自分たちにできることを考えたりし、自助・共助の力を育む。

### ○ 実施期間

令和3年9月18日（土）～令和3年9月20日（月・祝）2泊3日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童（13名/20名）

### ○ 活動プログラム

9/18（土）	9/19（日）	9/20（月・祝）
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床・洗面	6:00 起床・洗面・清掃
12:00 ジオパークセンター着	6:30 災害時に役立つアウトドアクッキングⅠ (カートンドッグ)	7:00 朝食(食堂)
12:10 昼食(弁当)	9:00 備蓄倉庫見学	9:00 学習のまとめ
12:40 ジオパークセンター見学	9:30 避難所運営ゲームHUG	11:00 成果発表
13:40 起震車体験	11:15 防災グッズ作り	12:00 昼食(食堂)
14:40 南海トラフ地震・津波学習 講師：室戸世界ジオパーク センター 中村専門員	12:00 昼食(食堂)	13:00 閉講式
16:10 自然の家へ移動	13:00 防災バックの中身について考えよう	13:30 自然の家発
17:00 防災食試食体験 (マジックライス)	15:00 災害時に役立つアウトドアクッキングⅡ (カレー、ハイゼックス)	16:00 はりまや橋観光バスターミナル着
20:00 振り返り 無水シャンプー体験	20:00 振り返り	
21:00 就寝 (防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験) レスキューシート	21:00 就寝 (宿泊棟で就寝)	



## 2. 活動の様子

### <1日目>

SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連し、災害による被災者を減らすということ、今回の事業の目的である「自助・共助」について考えていくことを、開講式で児童に伝え、事業を開始した。初日は「地震・津波の基本的な知識」と「災害、被害の様子を知ること」の2点を中心にプログラムを計画した。

「地震・津波の基本的な知識」については、室戸ジオパークセンターと連携し、館内ガイド、地震・津波学習を行った。館内ガイドでは、高知県沖の南海トラフを3Dメガネで体感したり、地震探知機について説明をしてもらったりするなどしながら知識を深めた。地震・津波学習では、中村地理専門員の講義により、地震の仕組みや室戸大地に成り立ちについてクイズ形式で楽しみながら

学んだ。

「災害、被害の様子を知ること」に関しては、まず起震車体験を行った。震度7を初めて経験する児童もあり、「怖かったし、動けなかった」という感想が多く、地震の怖さや揺れの強さを実感することができた。自然の家に到着した後、東日本大震災の津波の様子や被害の様子をDVDで視聴し、被災者の体験談を聞いた。児童たちは集中して、画面を見たり、話を聞いたりし、災害の怖さや被害の大きさ、生活の困難さを感じていた。

夕食では防災食体験を行い、お湯だけでごはんができることに驚く児童がいた。またお湯でごはんができることはすごいけど、家のご飯の方がおいしいという意見もあった。普段の生活が恵まれていることに気付いたり、防災食だと自分の満足いく量が食べられないということにも気付いたりしていた。

夜は防災研修棟にて、電気や水といったライフラインが遮断された状態での避難所体験を行った。懐中電灯のみで生活したが、実際に懐中電灯の電池が無くなってしまった児童もあり、友達に照らしてもらいながら就寝準備をしていた。電気の大切さを知るとともに、互いに協力しながら生活することができていた。初日は濡れタオルで体を拭き、無水シャンプー体験をした後、レスキューシートに身を包んで眠りについた。



## <2日目>

6時に起床し、防災研修棟の前でカートンドッグ作りに取り組んだ。児童はアルミホイルで食材を包み、牛乳パックに入れて焼くだけで、簡単にホットドックができることに驚いていた。

朝食後は、備蓄倉庫への見学に向かった。所内に防災備蓄倉庫が設置されており、中にどのようなものがあるのか調べた。非常食はもちろん、ガスコンロや毛布などたくさんの備えがあることに気付くことができた。

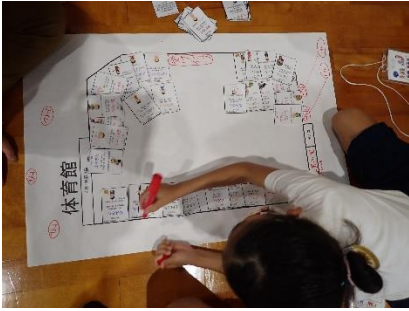
「避難所運営ゲームHUG」では、避難者や条件に合わせて自分たちで避難所の運営について考えた。意見がまとまらないときもあったが、班で協力しながら考えることができていた。

「防災バックの中身について考えよう」では、自分で必要だと思うものを考えた後に、友達の意見を聞いたり、実際の防災バックを持って重さを確認してみたり、中身を確認したりした。活動前と後で意見の変わる児童もあり、自分なりに必要なものを考えることができていた。

夕方の野外炊事では、ジッパー付袋でカレーをつくり、ハイゼックス炊飯でお米を炊いた。新型コロナウイルスにも配慮し、各自1人1人で簡単に調理できるレシピにした。ハイゼックス炊飯では炊きが甘く、硬いご飯になったところもあった。また、新聞製の皿にビニールをかけた食器を使ってみたが、普段の食器とは違い、うまく食べられなかったり、お皿が倒れたりした。不便なことが多い野外炊事であったが、普段の生活との違いやありがたさに気付くことができた。

2日目は宿泊棟に泊まることで、初日の生活との違いを実感し、布団や電気があることのありがた

たさを感じる事ができた。



### <3日目>

最終日は、2日間の防災生活を振り返り、各班で成果を模造紙にまとめた。防災生活を「自助」「共助」の項目に分け、自分の考えを出し、班で意見を共有しながら仕上げた。「自助」では、自分が避難すること、防災バックの中身を準備する必要性についてまとめられていた。また、「共助」では、互いに助け合うことの大切さや、役割分担をする大切さにも気付く事ができた。

感想には「自分でできることは自分でやる」「みんなで協力する」というような意見や、「失敗もあったけど楽しかった」「家で防災バックを準備したい」という意見もあった。

作成した模造紙は、室戸世界ジオパークセンターに掲示をしてもらっている。今回の事業を通して、今後発生すると予想される南海トラフ地震に向けて自分なりの対策や準備をしてほしいと願っている。また、家族や友達にも学習したことを発信しながら、共助についても意識を高めてほしい。



### 3. 事業の成果と課題

#### ○ 参加者の感想

- ・体験的な学習でとても分かりやすかった。
- ・学習したことを生かして、家（家族）を守るために実践していきたい。
- ・地震について知ることができた。
- ・いつも電気や水、ガスを使うことを当たり前にしてきたけど、使えなくなるとありがたみが分かった。
- ・防災食の味や作り方を知ることができた。
- ・津波を確認してから避難するのでは遅いということが分かった。
- ・メタルマッチ、カートンドッグ作りが楽しかった。

#### ○ 事業の成果

- ・起震車体験や地震・津波学習、東日本大震災 DVD 視聴等により、地震の被害の大きさを知り、防災学習を行う必要性を感じた上で学習することができた。

- ・活動をたくさん取り入れたことで、児童たちは様々な経験をし、家に帰って実際に取り組んでみたいことや、被災した時の対応について学ぶことができていた。
- ・活動や生活の中で、自分がどう行動すればよいか、みんなとどう助け合うかについて考えさせることにより、自助・共助の意識をもつことができるようになった。

○ 事業の課題

- ・配布したペットボトルの水量の調整や懐中電灯使用の有無などについて見直し、さらに実際の避難所を近づいた体験を行いたい。
- ・今後は新しい活動を取り入れながら、さらに防災意識が高まるような事業を展開していきたい。